

○工藤議長

はじめまして、工藤慎康です。このたび期せずして議長になりました。

まだ右も左も分かりませんが、議長に選任いただきました以上は、精一杯努めさせていただきたいと思っておりますので、ご指導をよろしくお願いします。

○記者

政治家を志したきっかけをお聞かせください。

○工藤議長

皆様ご存知のとおり、私の祖父が議員でした。祖父は志半ばで辞めたので、何とか引き継ぎたいと思って議員になりました。

○記者

祖父と同じ議長になったお気持ちを聞かせください。

○工藤議長

私は議員になってまだ5期目であり、日々勉強です。

○記者

抱負をお聞かせください。

○工藤議長

私自身が一病息災の状態です。今は健康に問題ありませんが、6年前に軽い脳梗塞になりました。こういう機会をいただいて議長になりましたので、副議長、議員、皆様の力を借りて円滑に進めたいと思います。

○記者

区割りなど議会改革の思いについて聞かせください。

○工藤議長

議員定数等検討委員会からの返事を待っており、私がお答えすべきでないと思います。

○記者

県議会としてどういう姿を求めていくのか聞かせください。

○工藤議長

開かれた議会です。私自身が議会改革検討委員会の委員長でしたので、今まで議長に対して中間報告

を提出してきました。それも中間報告であって、最終ではありません。今後どうやっていくのか、最終の形に近づけていきたいと思います。

○記者

宮下知事は議会との関係について一輪と言っています。知事の議会への姿勢について、どのように受けて止めているのかお聞かせください。

○工藤議長

実は、私は宮下知事が一輪と言ったことの意味はわかりません。私は執行部が一輪、議会が一輪、それで二輪と思っています。なるべく両輪でいきたい。

○記者

これまで5期の議員活動の中で印象に残ったことについてお聞かせください。

○工藤議長

課題は一つでなく、山積していると思います。少しでも進展させたい。重要課題は人口減少です。何とかてこ入れをして、人口を増やしたいと思います。

○記者

地元の七戸でも、その辺のことをお感じになられる場面は多いのでしょうか。

○工藤議長

やはり感じる人が多いです。首長も何とかしたいと思っており、一緒に取り組んでいきたい。

○記者

議員になる前の仕事についてお聞かせください。

○工藤議長

議員になる直前は農業、水耕栽培でいちごがメインです。その前が建設業です。

○記者

体調管理、日課やルーティーンについてお聞かせください。

○工藤議長

2011年に購入した車で県内を30万キロ走りました。地元の上北郡と同じ問題が県内の各地にもあると思って探しています。管理栄養士のアドバイスを受けて、なるべく暴飲暴食をしないようにしています。それで多少痩せました。

○記者

食事は何かお好みですか。

○工藤議長

和食、洋食、全部好きです。

○記者

ご家族についてお聞かせください。

○工藤議長

一人暮らしです。

○記者

座右の銘、政治信条についてお聞かせください。

○工藤議長

座右の銘は意識的につくらないようにしていますが、県政に対して誠心誠意でありたいと思います。

○齊藤副議長

皆様、お忙しいところありがとうございます。第 83 代副議長に選任いただきました齊藤爾です。議場でも申し上げたとおり、大変重い責任を感じており、これから大変という思いでいっぱいです。先ほど壇上に立ち、とにかく暑いと感じまして、これから環境改善していきたいと思います。工藤議長を補佐しながら、議会の円滑な運営に努めていきたいと思います。

○記者

副議長としての抱負、取り組まれないことをお聞かせください。

○齊藤副議長

議長を補佐するのが副議長です。議長と相談しながら議会の閉鎖的なところを解決したいと思います。暑さ対策など環境づくり、それから自戒の念を含めて、県民に見られている意識をもちながらの議会運営に努めていきたいと思います。

○記者

閉鎖的なところとは、まだ県民に開かれていないところがあるということでしょうか。

○齊藤副議長

ネットや SNS など進んできているところはあります。一方で、他県の状況をみて、まだできることがあるということを議長に相談しながら提案したいと思います。

○記者

最も思い入れのある県政の課題についてお聞かせください。

○齊藤副議長

三つぐらいに分けると、世界から見た視点、日本の中での青森県の立ち位置、そして故郷を見つめた場合の問題点になると思います。私の地元で言うと、豪雪、リンゴの被害、ホタテもそうですが、農林水産業が苦境にあり、再生ということが議会の重い責任の一つと感じています。地域経済を支えるためにも、しっかり手当していかなければいけないと思います。

○記者

副議長のホームページを拝見すると、県議会を志したときは反対も多かったとありました。県議会を志したときの思いについてお聞かせください。

○齊藤副議長

32 歳で岩木町議会議員になろうと思い、父からはやめなさいと叱責を受けましたが、それでもやろうと思いました。36 歳で弘前市議会議員になるときも、父からやめなさい、家業をしっかりやってほ

しいと言われました。40歳で県議会議員に挑戦するとき、父は賛成してくれましたが、一票入れることはできない、選挙のときに自分は亡くなっているからと言われました。実際に父は亡くなり、投票できませんでした。そのときは同僚など、いろいろな方に支えられて、その思いに応えたいと思いました。

○記者

県議会議員でないと、成し遂げられないことがあると思ったのでしょうか。

○齊藤副議長

お金の流れが国から県、市町村へという形であり、変えていくためには町議会議員では難しいと肌で感じましたので、県議会議員で頑張ってみようと思いました。

○記者

これまでの議員活動で一番汗をかいた取組についてお聞かせください。

○齊藤副議長

りんご、農林水産関係になると思います。これまでも災害などありましたが、今、地域の思いをしつかりと国に伝えていくことが我々の仕事と思っています。

○記者

休日はどう過ごされているのかお聞かせください。

○齊藤副議長

毎朝3時に起きて、7時に会社に行き、休日も含めて午前中に仕事をします。昼から温泉に行き、公務がないときは、お酒を飲みながら年配の方と語り合っています。

○記者

健康管理やリラックス方法についてお聞かせください。

○齊藤副議長

温泉が好きで、週に2、3回は行きます。毎年、健康診断、精密検査を受けるようにしています。副議長になりましたし、少しダイエットもしたいと思います。

○記者

座右の銘、政治信条についてお聞かせください。

○齊藤副議長

「意志あるところに道あり」、固い意志があれば道は開けるだろうということです。それと、「生きるだけで丸儲け」という言葉が大好きです。

○記者

お仕事をどのようにご紹介すればよろしいでしょうか。

○齊藤副議長

元々は塗装屋の職人です。高校を卒業して出稼ぎに行き、実家に帰り、父と二人で屋根を塗りました。農家からりんごを買って売る、輸送する、それから倉庫業をするようになりました。今は老人ホームもやって何とか暮らしていますが、倉庫業がメインとなっています。